

タウンミーティング議事録

1 日 時

令和 5 年 3 月 2 5 日（土）午前 1 0 時から正午まで

2 場 所

流山市役所

3 参 加 者

（1）特別職等

井崎市長、田中教育長

（2）部局長等

須郷総合政策部長、伊藤市民生活部長

伊原健康福祉部長、大島環境部長、石野まちづくり推進部長

矢幡土木部長、大塚教育総務部長、宮本学校教育部長

（3）事務局（秘書広報課）

若林課長、軍司課長補佐、中山主事、村田主事、金子会計年度任用職員
須賀主任主事（記）

4 来場者数

1 7 名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

転職支援に関する仕事に従事していますが、学校教育においてキャリア教育がどのような状態になっているかをお聞きしたいです。

また、都内では子どもの医療費が無料であり、流山市では現在200円となっていますが、今後無料にする展望はあるのでしょうか。

最後に、流山おおたかの森駅周辺は非常に開発が進んできましたが、初石駅周辺は少し薄暗く、昔のままの伝統のある趣といったような景色になっていますので、何か整備計画等があればお聞きしたいです。

A 市（宮本学校教育部長）

市内の小中学校では、子どもたちが自分の生き方について考えたり、将来に夢を持たせるということを大切にしながら、キャリア教育を進めているところです。

例えば、市内中学校6校では、子どもたちが職場にお邪魔して様々な体験をさせていただく職場体験を実施しています。この他にも、その道のプロの方々に足をお運びいただき、仕事に関するお話をいただく「職業人講話」を実施しており、こちらはワークショップ形式の体験も含め、小中学校で盛んに行われています。

また、「地域学校協働本部」といって、地域の方々にも学校経営に参画してご協力いただくという体制も整っています。

子どもたちのアンケート結果からも、「働くことのやりがいや苦労を知ることができた」「普段では知ることができないことを知れてすごく充実していた」「お客としてしか関わることがなかったが、実際に働くことで、逆の立場の気持ちがよくわかった」「様々なルールやマナー、気づかいを知ることができた」といった感想が寄せられ、小学生はもちろん、中学生にとっても、将来の生き方についてしっかりと考える大切な機会であると実感しています。

今後も、このようなキャリア教育を積極的に推進していきたいと考えています。

A 市（井崎市長）

流山市の子ども医療費助成については、18年ほど前に始まりましたが、当時、医療関係者の方から、無料にするとモラルハザードが起きる可能性があるという注意されたことがあります。

小さなお子さんについては体調管理が難しく、具合が悪くなるということは仕方ありませんが、中学生くらいになってきたら、具合が悪くなったからすぐに病院に行くというのではなく、「具合が悪いから今日は早めに休もう」といったような、体調の自己管理方法も学ばなくてはいけないと考えており、現時点では無償化の考えはありません。

なお、子ども医療費助成については今年度までは中学３年生までが対象ですが、令和５年４月１日より高校３年生まで対象を拡大します。

８月１日からは医療機関で直接２００円を支払う形となりますが、４月から７月の間は償還払いによる対応となりますので、領収書等は大切に保管しておいてください。

初石駅については、現在橋上駅化事業を行っており、令和６年度末に完成する予定です。また、西口広場は東武鉄道が所有しているため、再開発を行っていただけるよう協議を進めているところです。

防犯灯については、お住まいの自治会に相談いただき、自治会から要望をあげていただければ幸いです。

Ｑ 市民

３歳の息子と出かける際に、大規模な公園や動物園、水族館といったような施設は市外に多いと思います。子育て世代が増加している中、このような需要を取り逃していると感じており、今後、市としてアプローチしていく方針等があればお聞きしたいと思います。

２点目に、流山市ではＧＩＧＡスクール構想によるＩＣＴ教育の中では、データ連携について語られることが多いと思います。こういったデータは子どもや教師が活用することが想定されていると思うのですが、保護者が見ることは可能なのでしょうか。教育ビッグデータの活用についても具体的な事例があればお聞きしたいです。

Ａ 市（井崎市長）

流山市は、周辺のまちと比較しても、人口に対して図書館や児童センター等は整備されている状況です。

ただし、動物園や水族館といったような費用の掛かる大規模施設については、この３０年間のＴＸ沿線の区画整理の中で地価も上昇し、とても誘致するような価格帯ではなかったということが挙げられます。

流山市の財政について、現在は完全に健全化しましたが、20年前の新聞などでは「流山市は数年のうちに財政破綻する」と記事にされるくらい財政が厳しい状態でした。動物園等の大規模施設はメンテナンス費用や来園してもらうための仕掛けづくりなど、多額の設備投資をし続けないと赤字になるというリスクがあり、当時はこういった施設を建設することは考えられない状況だったことも一因としてあります。

TXの開通など、交通の便も良くなっているので、動物園や水族館といったような施設については、市外まで足を運んだうえで楽しんでもいただき、流山市としては、住民の方に直接提供するサービスに力を入れていきたいと考えています。

なお、民間事業者の事業となりますが、流山インターチェンジ付近で大規模な開発計画が進んでいます。

事業主体は民間事業者となるため市は建設に関与はしませんが、施設が完成した際には、流山市民だけでなく、首都圏から人が集まってくる可能性があります。

A 市（宮本学校教育部長）

ICT教育につきましては、コロナ禍によりGIGAスクール構想が前倒しになり、1人1台端末という形で、自宅にタブレット端末を持ち帰り、学習に活用するというような体制が整えられました。

今までは、例えば大規模校で、授業で一斉に使おうとすると接続に問題が出ることもありましたが、令和4年度に各学校においてネットワーク環境が完全に整い、今後新しくできる学校についても、しっかりと整備をしていく予定です。

また、子どもたちにプログラミング的思考を伸ばしてもらおうというところでプログラミング教育というものを行っております。流山市では「toio」という、小さな四角いキューブ型のものに命令をくだすことで、自由に動かせるようなプログラミング学習を行っています。こちらは産業界や、東京理科大学などのご支援をいただきながら進めているところです。

一方で、教員の中にはICT機器に長けていない方もいますので、各学校に情報教育推進リーダーを配置し研修会を行っているほか、民間の方にご協力いただき各学校にICT支援員を配置するなど、ICT教育に携わる方々のサポートにも着手しています。

ご質問がありました、データを保護者が見ることができるのかといったところについては、子どもたちはタブレット端末を持ち帰っていますので、それをご覧になることは全く問題ありません。

また、ビックデータの活用についてですが、タブレット端末を使うことで、子どもたちの学習の履歴が残り、こういったところの学習につまずいているのかといったことが手に取るようにわかります。それに対して、教員がきめ細かな指導、或いは個別最適化された学びを進められるよう、一層の整備を進めているところです。

他にも、「心の天気」というタブレット端末に子どもたちが自分の今日の気持ちを天気として入力する仕組みがあります。言葉として気持ちを表現することが得意でない子どももいますので、この心の天気を手がかりとして、きめ細かな支援につなげているところです。

ICT の活用ももちろん大切ですが、データ上だけでなく、子どもたちを直にしっかりと見守るということも大事だと考えていますので、そういったところも適切にバランスをとりながら進めていきたいと考えています。

A 市（井崎市長）

補足となりますが、toio はソニー・インタラクティブエンタテインメント、流山市教育委員会、東京理科大学、株式会社内田洋行が連携して実施しており、東京理科大学の先生がトップとなり、学生の方が実際に教室に入り指導を行っています。

また、昔は黒板に先生が板書し、生徒はそれを書き写すということが一律に行われてきましたが、生徒一人ひとりがタブレット端末を使用しているという利点を活用し、流山市ではすべての学校で電子黒板ないし電子モニターを使って授業をしており、ICT インフラが整ったことで、主体性を伸ばすような教育が可能となってきました。

教育というものが「教える」というよりも、「主体的に勉強していく姿勢を支援する」という形に変わってきており、教育委員会にはぜひ、このようなノウハウを広めていってほしいと思います。

Q 市民

福祉の相談員に従事しているのですが、福祉活動の広報について、様々な世帯状況に向けたアウトリーチを進めていただきたいと思います。

また、流山市でも重層的支援が始まりますが、事業の進め方を教えていただきたいです。

A 市（伊原健康福祉部長）

まさにおっしゃる通りで、実際に課題を抱えている方々は、自ら相談に来るということが難しいという状況があるということは認識しております。例えば、ご質問にもありました母子家庭の方や外国籍の方などをはじめとし、様々な困難さや障害をお持ちの方にどうやって情報をお届けするかということは、大きな課題です。

こちらについては、現状で足りているとは思っていませんので、様々な手法による周知を考えていかないといけないと考えており、ご発言いただきましたアウトリーチ、例えば、家庭訪問などにより実際にお会いしてお話を聞く、地域に出向いてお困りの方がいらっしゃらないかどうかを多方面から把握するといった取り組みは必要だと思います。

本市の重層的支援体制整備事業については、令和4年度からプロジェクトチームを立ち上げるとともに、どのようなあり方が良いのかを協議する懇談会も立ち上げ、かなりの回数の議論を積み重ねてきました。

今後、令和6年度を目標に、本市の重層的支援体制整備事業のやり方を今形づくりしているところであり、まだ正式に発表できる段階にはありませんが、この1年で、かなりの回数で検討を積み重ねてきましたので、機会があれば、事業の説明を行い、様々なご意見を伺う機会を設けられればと思います。

今までの制度では、例えば高齢者は高齢者用の相談窓口など、分野により相談先が別々にありましたが、それぞれの分野の狭間にあるケースなど、連携を密にしないと救えないケースが非常に増えてきています。

このような方々を今後お1人たりとも漏らさず、きちんと安心して生活ができるような支援を届けていくということについて、引き続き注力してまいりたいと思います。

関心を持っていただき、ご質問をいただけることはとてもありがたいと思いますので、今後も引き続き、お気づきの点がありましたらご意見をいただきたく思います。

Q 市民

流山の今の盛り上がり方を継続するためには、子どもたちが将来流山市で働きたいと思ってもらうなど、市外に流出しないことが大切だと考えているので、市内で新たな仕事が生まれていくような仕組みを作り、その子どもたちが流山市内で教育を受け、流山市に貢献したいと考えてもらえるような循環形成ができないかと思っています。

私自身もA Iの研究開発に携わっており、市内で新しいものを作っていくという基盤はまだできていないと思いますので、企業誘致などによる新たな雇用の創出などが必要なのかなと思います。

継続的にまちを盛り上げる仕組みがあれば衰退せずに今の盛り上がり方を継続できると思いますのでよろしくお願いします。

A 市（井崎市長）

私も10年以上アメリカにいて流山に戻ってきましたが、今の30代の方々なども、一時的に市外で働いたとしても、最終的に流山に戻ってくる方が非常に増えてきています。

転勤などにより市外で働くとしても、心が流山と繋がっていて、市外で活躍していただいた後、最終的には機会を見て流山に戻ってきていただき、市民、あるいはビジネスパーソンとして活躍いただければ幸いです。

この形はすでに実現しつつありますが、今後もしっかりと部署間で連携を図り具体化していければと思います。

生涯学習センターの3階に市民活動推進センターというものがあり、ここでは市民と市民、市民と行政、また、最近では社会貢献したいと考える企業が様々な形で連携を取り、新たな事業を立ち上げています。

2016年から2021年の5年間で人口は13パーセント増加しているのに対し、市内の雇用数は25%増加しています。このことから、様々な企業が、流山市には人材が多くいるということに注目し、市内で開業しているということが伺えます。

流山市は「仕事から帰って寝る」というベッドタウンではなく「仕事もできるまち」となっていると感じており、そういった意味ではこの度のご提案の方向に動き始めていると認識しています。

この他にも、ふるさと納税について、流山市に寄付したいので良い事業を作ってくださいという声を多くいただいております。

返礼品で美味しい食べ物がもらえるからということで他の市町村にふるさと納税している方も多いと思いますが、ふるさと納税により流山市に入ってくる金額と流出する金額の差は８億円と、かなり大きな金額となっています。

来年度から、マーケティング課が中心となり、返礼品だけでなく、事業面などの視点も含め、様々なイメージを作ってまいりますので、ぜひ、今年の１２月３１日を迎える前に、流山市のふるさと納税にも目を向けていただければと思います。

Ｑ 市民

１４年前に流山市に引っ越してきて、ここで子育てができて本当に良かったと感じています。特に、学童保育にはとてもお世話になり、ありがたかったです。

私自身、今は親の介護に直面しており、周りにも心の調子を崩されたり、子どもに障害が見つかったりなど、人生で思いもよらない出来事に直面している方が多くいらっしゃいます。

人生において、誰がどのような場面に置かれても、安心して過ごせるようなまちに出来ればいいなと思い、質問ではないのですが、今日のタウンミーティングに参加させていただきました。

Ａ 市（井崎市長）

今まで流山は、子育てのしやすいまち、特に仕事をしながら子育てできる環境づくりに力を入れてきました。

お話を頂戴いただいたような障害者への支援も行ってきたところですが、仕事をしながらの子育てということについては流山市も成熟してきたこともあり、子どもに障害のあることに関する親御様の声というものが最近は多く届くようになってまいりました。

子どもに毎日「ごめんね」と謝りながら子育てをされているというお話を伺ったこともあります。そのような中、一人で抱え込まずに相談できる相談先をご案内し、同じような課題を持っている方同士が繋がるような支援を行うことで、お子様に「生まれてきてくれてありがとう」と言えるようになったというお礼の言葉をいただけたのですが、行政がもっとスピーディーにそういったものをご案内できるよう、現在ホームページの作成をすすめているところです。一日でも早く同じ境遇の親同士や相談先と繋がれるような体制

を整えられるよう、今後も引き続き尽力してまいります。

教育面でも、従来は特別支援学校に通うということが多かったですが、インクルーシブ教育を取り入れ、特別支援学級に入ることによって生徒間の交流が盛んに行われてきており、介添員の増員や、来年度からは特別支援アドバイザーを配置するなど、専門家を配置する体制も整ってきています。

介護についても、特別養護老人ホームを3.4倍に増やしており、全国平均である1.7倍のちょうど2倍となっており、受入体制の整備に力を入れています。

また、状況により在宅介護をされる方も増えてきており、そのためには訪問診療を行っていただける医師を確保する必要があり、こちらは健康福祉部で働きかけていますが、なかなか容易なことではありません。

急性期医療として救急車で運ばれて医療を受けるという場面が増えてきていますが、流山市は、人口に対する病床数が東葛地域で一番少なくなっています。最近ではコロナ禍により新設を考える医療機関が無かったのですが、流山市は根気強く立地促進を継続した結果、北部地域に流山中央病院と同規模レベルである150床を有する病院が進出することが決定しました。

市としては、医療の中核を担う、いわゆる総合病院の新設も目指しており、今後も立地促進や医師会との協議を進めてまいりたいと考えています。

市としては、病院の体制づくりが喫緊の課題であると認識しており、現在注力しているところであり、引き続き、どのような境遇の方でも安心して生活できるまちづくりに努めてまいります。

Q 市民

道路上で流山市の入口に設置してある看板が普通な仕様なので、なにか「ここが流山だ」と印象に残るような看板を掲示できると訪れた方にインパクトが残るのではないかなと思います。

また、日本年金機構が資産運用に成功したという話も聞きますので、流山市でも資産運用を行い、その利益を給食費の無償化や保育士の待遇改善などに充てられればと思います。

最後に、TX一日乗車券などがあればいいなと思います。

A 市（石野まちづくり推進部長）

流山おおたかの森駅周辺では、区画整理で整備を行う中で、歓迎サインを

出しており、南流山では矢羽根型のサインを駅前にいくつか設置しています。

来年度、南流山駅周辺の整備や都市計画の関係で、その辺りのご意見を参考にさせていただきつつ、設置に向けた検討ができればと思います。

また、TXの一日乗車券については、長期休暇などのイベントの際に販売を行ったりしていますが、今回のご要望はそれを常時販売してほしいというご意見かと思います。こちらは、TXを運行する首都圏新都市鉄道とお話し合いをする機会がありますので、その中でご要望があったことをお伝えしてまいります。

A 市（井崎市長）

流山市はこの20年間で人口は39%、税収は84%増えています。

先ほども少し触れましたが、20年前の流山市は財政破綻しかねない状態であり、現在は健全な状態となりましたが、成田市や浦安市のようなお金持ちの自治体というわけではないので、まず、運用するような余剰金がないということが挙げられます。

そしてもう一点、自治体は毎年決算を出しながら運営していく中で、投資により黒字になったり赤字になったりするということは、議会や市民の皆さまからお許しをいただけないと思います。

このため投資や資産運用ということはできないのですが、流山市では先行して「自治体経営」という概念をもって市政の運営を行っています。税金を使うことが目的ではなく、市民サービスを提供することが目的なので、民間からの寄付や広告費を取り、0円で事業を行うような取り組みを行っており、こういったものが定着しつつあります。

資産運用に活用できるような余剰金ができただけの場合には、しっかりと議会や市民の皆さまに説明し検討に入るという心構えは必要かもしれないと認識しつつ、現時点では、そういった余剰金が発生することのできるよう、さらなる流山市の発展に尽力していきたいと思います。

Q 市民

最寄り駅が運河駅なのですが、電車が止まった時に振替輸送がなく、江戸川台駅では本数の少ないバスを待つなど、仕事に大幅な遅刻をせざるを得ない状況がありました。

2点目に、友人のお父様が無くなった際に火葬場を利用するのに10日間

ほど待たされたという状況があり、これについて改善は図られるのでしょうか。

最後に、タウンミーティングの参加にあたって、勉強のために市ホームページを拝見したところ、とても立派な政策が事細かく記載されている一方で、これらの事業に従事する職員数は足りているのかなと思いました。私は別市町村で会計年度任用職員として働いていますが、職員の方は毎日遅くまで働いており、ITなど業務改善の部分に資金を投入する必要があるのではないかと感じています。

A 市（石野まちづくり推進部長）

東武鉄道が運休した際の振替輸送については、東武鉄道が手配しているところですが、市としても東武鉄道とお話をする機会がありますので、その場で今回のご要望はお伝えさせていただきたいと思います。

A 市（井崎市長）

普段利用されないため、減便や廃止となった後に「バスが少なくて不便だ」というお声をいただくこともあるので、公共交通については、ぜひ日常的に利用していただきたいと思います。バスの維持のためにも、少し離れたところに飲みに行こうという時は、積極的にバスをご利用いただくことを意識していただけると幸いです。

火葬場の件については、流山市、柏市、我孫子市の3市で共同運営しており、こちらは地元の方々と協議し、様々な条件がある中で設置されたものであり、現在、この条件を変えていく努力を行っているところです。

コロナ禍の3年間はお亡くなりになる方が増えており、推計では1割ほど増加しており、平均して9日ほどお待ちいただく状態です。

今年度どの程度件数が減ってくるかということも見極めつつ、丁寧に説明を行いつつ、地元の方との協議を進めてまいります。

A 市（伊原健康福祉部長）

福祉の現場のニーズは多様化、複雑化しており、これに応えるには、さらなる配慮やマンパワーが必要となることも考えられます。

会計年度任用職員の方に力も貸していただきつつ、システム化できるところはシステム化しつつ現在に至っていますが、コロナ対応など突発的に想定

を振り切る業務量となることもまた事実です。

こういった課題をどのように乗り越えて、またどのようにニーズに応えていくかということを常に検討しながら業務にあたっていきたいと考えています。

A 市（井崎市長）

流山市は人口当たりの職員数が千葉県内で最少です。最少が良いというわけではないのですが、流山市は人口が増えているので、採用してもまた人口が増えて最少になっているというところもあります。

流山市はこの20年間で「無駄な仕事はやらない」ということに注力しています。当時は誰の役にも立たない分厚い資料の作成に力を入れ、計画書を作ることが目的と勘違いしているのではないかという時代もありましたが、市民サービスが行き届くことが目的だということをしっかりと認識し、計画の実行に重点を置くことで、無駄なものは省くという取り組みを行っています。

私としては、流山市の職員数が少ないのではなく、他の自治体が多すぎると思っています。若手をどんどん採用する一方、その人が65歳の退職を迎えるまでの約40年間の間に、人口が減っていき、結局過剰な人員を抱えているという自治体が多く見受けられ、このような合理化、効率化できていない現状が日本の問題ではないかと考えています。

ただし、福祉部門などの中でITによる対応ができない部分については、サービスの質が低下しないようにしっかりと増員する費用があると考えており、事務的なものはITを活用した合理化、マンパワーが必要なものはしっかりと増員するという切り分けが重要であると考えています。

Q 市民

南流山に住んでおり、0歳と2歳の子どもがおり、保育園については何も不安なく過ごしていますが、一方で、小学校に上がったからの生活に不安を感じています。

保育園に関する情報は、空き状況などを含めホームページに逐一情報が載っているのですが、学童保育についてはほぼ情報が掲載されていなく、何年生まで受け入れてもらえるのかなども分からなく、不安を感じます。

また、PTAの在り方について、福岡県内ではPTAのあり方について教

育委員会が通知を出したという報道があり、流山市はどのようにPTAに働きかけていくのか気になります。

保育園はすべてスマホアプリなどで完結しているのですが、小学校に入ると連絡帳やプリントでやり取りするということになると嫌だなと思います。

最後に興味本位ではあるのですが、南流山駅周辺の再整備などについて計画があればお聞きしたいです。

A 市（大塚教育総務部長）

学童保育は定員を上回った場合でも放課後の教室を借りるなどの体制を整えており、1年生から3年生までは希望者は全員受け入れています。

4年生から6年生までは定員に余裕がある場合受け入れており、学童保育についてはご心配のないような形で運営しています。

ホームページによる情報発信については、早急に対応してまいりたいと思います。

A 市（宮本学校教育部長）

PTAは任意の団体であり、保護者が参加できるのならば参加いただき、また、学校によってはPTAを作っていない学校もあります。これは学校長と保護者との協議となります。現状は、可能な時間に可能な範囲で関わっていただくということが主流になっています。

教育委員会として「PTAをこういった決まりで進めてください」とは申し上げられませんが、「このようなモデルはいかがでしょうか」という形で提案はさせていただいています。

また学校の連絡方法については、メールといったような直接保護者の方へ届く方法で連絡を行っているものもある一方で、保護者の方々との話し合いの中で、紙媒体でほしいというものについては学校で印刷してお配りしているものもあり、学校において個別具体的に判断しています。

ただ、今後もデジタル化できる部分については積極的にデジタル化したいと考えています。

A 市（井崎市長）

南流山地域の学童保育について補足なのですが、令和6年度に南流山第二小学校ができるので、スペース的にも余裕ができると思いますのでご安心く

ださい。

南流山駅周辺は、50年ほど前に武蔵野線が開通することに合わせて区画整理を行い、その際の土地利用の用途が今でも残っています。

現在はTXも乗り入れていますので、もっと高度な利用ができるようにしていこうという段階ですが、現在は駐車場として利用されるなど、土地の利用方法が進化していない状態です。容積率等を見直すことで刺激を与え、もっと高度な利用を促していきたいと考えていますが、地権者の方の理解が得られない場合もありますので、まちづくり推進部が丁寧に説明していきたいと思います。

Q 市民

ぐりーんバスに関するオープンデータを見てすごいなと思いました。これらのデータを市民や流山市に興味のある方が色々なことに活用していくということが大切だと思いますが、何かそのような働きかけを行っていく予定はあるのでしょうか。

A 市（須郷総合政策部長）

ご提案あったように、オープンデータをどうやって活用していくかというところは非常に大切なことだと思います。

市民活動団体がオープンデータを活用して、様々な事業の提案などを組み立てていらっしゃるのですが、オープンデータを市政に生かしていくことは今後も必要だと考えていますので、市民活動団体をはじめ、市民の皆さまと一緒に進めていきたいと考えています。

A 市（井崎市長）

市の課題を解決するためのオープンデータを使ったプログラムの発表会を10年ほど前に行っていたことがあります。

発表会は、Google本社で行ったのですが、もう鳥肌が立つほど素晴らしいプレゼンでありとても面白かったのですが、このことと市民ニーズがどこまで合致しているかという点について、調整が難しいところがあります。

コロナ禍も落ち着いてきたので、またどこかのタイミングで実施できればいいなと考えています。

Q 市民

流山おおたかの森駅周辺はとても魅力的になってきていますが、江戸川台の駅前には千葉興銀もなくなり、バスも少ないので、愛の手を差し伸べていただければ幸いです。

私は青田に住んでおり、八木北小学校の学区域なのですが、八木北小学校に通う子はわずかで、ほとんどが西原小学校や江戸川小学校に通っています。

越境することで第三子以降の学校給食費無償化のカウント方法などに影響が出てしまい無償化の恩恵に与れないという声を聞きますので、うまく柏市と調整などはできないのでしょうか。

また、流山市では保育士への助成金を支給していますが、園によってはこの助成金がしっかりと現場の保育士に支給されていたりいなかったりとバラつきがありますので、市の方で監視をするなどの見張りのような役割をするのは難しいのでしょうか。

最後に、先ほども話がありましたが、市の職員数が人口増加に追い付いていないのではないかとすごく心配しています。救急隊員などは市民の安全のためにも増員してはいいのではないかなと思います。

A 市（井崎市長）

江戸川台の住宅地は良質な住環境であり、これにふさわしい駅周辺にしようと再整備に向けて動き始めています。

一つ目はジェトロの跡地に様々な障害をお持ちの方の自立や社会参加を支援する障害者センターを新設するとともに、その施設の1階部分については商店街の賑わいを促し、人が循環できるような施設を入れられるように民間企業と協議しています。

二つ目に、東口駅前広場については、少し広くし安心快適に利用できるように再整備を行っていきます。

こういったものが全て形になってくると江戸川台全体の付加価値も上がると考えており、散策しながら楽しめるような空間となるよることかと思っています。

北部地域の人口減も下止まりしており、今後は世代交代とともに少しずつ増えていくと思いますので、タイムリーに江戸川台駅周辺の整備を行っていきたいと考えています。

A 市（宮本学校教育部長）

通学区域外就学については、区域外就学と指定学校変更という二つの手法があるのですが、柏市への就学の際には柏市との間で協議を行っています。

第3子以降学校給食費無償化についても今年の1月より開始されていますが、柏市の学校に就学した場合の取り扱いについては、どうしても柏市の取り扱いに準ずる形になるため、流山市としては如何ともしがたい状態ですが、流山市のお子様については県の方針に則り、素早く対応させていただいているところです。

A 市（井崎市長）

東京都の完全無償化と比べると見劣りしてしまうかもしれませんが、県内では各自治体が足並みをそろえて対応に当たっている現状です。

保育士への支援金については、約30億円の費用を費やして住宅手当の補助や給与加算などの処遇改善を行っています。保育士に行き渡っていないという件について、園からの会計報告をもとに確認を行っているので、あり得ないと思うのですが、しっかりと精査いたしますので、後ほどお手紙等で情報をいただければ幸いです。

救急隊員を含め、保健師や看護師、障害に関わる福祉専門職については、今年も増やしていますし、今後もしっかりと人員を確保していきたいと考えています。

Q 市民

月に数回総合運動公園のテニスコートを利用しているのですが、駐車場には、明らかに利用者でない業者や、セントラルパーク駅を利用するために駐車しているような車が多く見受けられ、利用者がなかなか止められない状況です。有料化等を含めて何か対策は検討されているのでしょうか。

また、南流山中学校の移転がありますが、ユアーススポーツ周辺の通りは交通量も多く、自転車の通学路とするには危険だと思います。そもそも東洋学園跡地に新設することに疑問を覚えています。自転車の通学路の変更などはないのでしょうか。

A 市（石野まちづくり推進部長）

現在、総合運動公園の再整備を進めているところであり、テニスコートに

については現在の 8 面から 12 面に増やすための基盤造成を行っており、令和 5 年末には皆さまにご利用いただける予定です。

テニスコート利用の際の駐車場ですと、西口には三角形の駐車場がありますが、こちらは現在の倍以上の台数が駐車できるよう整備を進めていく予定です。

ご指摘いただきました目的外利用については、市としても把握しており、特に南側のバーベキュー広場に隣接した駐車場については、通勤で駅を利用するための駐車が多く、駐車場の利用可能時間を通勤時間とずらすことで、目的外利用をできなくするといった取り組みを行っています。

また、西口には収益施設を作る予定もありますので、その事業者への管理委託等も検討しています。

有料化については確かに効果的な施策の一つですが、市としては公園の利用者にはやはり負担なく無料で利用していただきたいので、有料化の観点は視野に入れつつも、現時点では、適正に利用していただく方向で対応していきたいと考えています。

A 市（井崎市長）

文部科学省は自治体が学校を建設する場合、3 年先までの児童生徒の推計値を報告の上、建設計画を作成していくということを決めています。流山市ではそれでは不十分であると考え、6 年先の想定地を参考に計画を立てています。

どこに新設するかということについてはかなりの検討を重ね、区域内に学校を建設するための十分な土地がなく、一時期は調整池の上に学校を建設するという計画もありましたが、費用に対して規模が小さくなるなども問題もありました。そのような中、東洋学園大学の敷地が空くこととなったため、現在の計画となりました。

A 市（宮本学校教育部長）

小学校には、指定通学路というものがありますが、中学校にはなく、あくまで通学ルートとなる参考のルートをお示ししています。

自転車通学路については、ルートを協議する際に実際に現場を自転車で走り確認を行っており、こちらには私自身も参加し現場を確認しております。

自転車通学については、学校で自転車安全教育を徹底するとともに、危険

が予知できるような箇所については、開校前に必要な対策を取るよう安全点検を進めていますので、今後引き続き、移転後も子どもたちが安全に通学できるよう対策を重ねてまいります。

Q 市民

マーケティング課が発信しているインスタグラムを閲覧しており、知らない場を見て「ここに行ってみたいな」と思うことがよくあり、とても有用なアカウントだなと思っています。

ただ、市として推したい部分があるのかと思いますが、情報が偏ってしまうと感じるところがありますので、もっと満遍なく様々な情報を発信していただけると嬉しいなと思います。

例えば、最近では流山市の21万人クイズを実施していることをインスタグラムで知ることができました。もちろんホームページでも紹介していると思うのですが、ホームページは用がなければ積極的に見に行くことは少ないと思いますので、SNSでの情報発信を密に行っていただけると、様々な情報が市民の目につきやすくなるのかなと思います。

二点目に、私は3歳になる子どもがおり、その際は里帰り出産だったのですが、今後二人目、三人目は流山市で産みたいと考えていますが、産科が少ないため、お産ができる場所限られています。子育てのまちを謳われる中で、産むというところもスタートラインとして捉え整備していただけると嬉しいなと考えており、その辺りのお考えを伺いたいです。

最後に、保育料の無償化について、全員は難しくても、低所得者に向けた支援など、今後の方針があればお聞きしたいです。

A 市（須郷総合政策部長）

インスタグラムについては市民の皆さまへの情報発信の他、市外の方にもご覧いただき、流山市にお越しいただく機会を増やしてもらうという目的で様々な情報を発信しています。

旬な情報を中心に発信しているところですが、本日いただいた情報の偏りといった観点も参考に、もっと幅広く、多様な魅力を発信していきたいと思っています。

A 市（井崎市長）

産科について、流山市では立地促進を進めており、できるだけ流山市に新設してくださいと誘導しているところです。

産科の数は、人口に対しての全国平均的な数はあるのですが、流山市の特性として20代から30代のボリュームが厚いということがあるので、これに甘んじず、もう少し増やしていく必要があると考えています。比較的大きく、有名な産科が2～3年後にはできますので、そうすると病床数は全国平均を上回ることになると思います。

3人目以降の保育料の無償化については、昨年9月より第1子の対象を小学校3年生まで広げ、制度の拡充を図ったところです。今後、東京都が0～2歳児の第2子の無償化を行います。流山市で対応する場合、10数億円と莫大な費用が必要となります。先ほど少し話に上がりました、成田市や浦安市のようなお金持ちの自治体以外ではこの費用負担は非常に困難なものとなります。

私は現在千葉県市長会の長も務めており、このような財政格差による不公平が生じてはならないと考えていますので、一律して0～2歳児の保育料を無償化とする制度を創出するよう、国に対して4月中に要望する準備を進めています。

最近はまだ聞きえてきませんが、異次元の少子化対策を謳う政府が6月に発表する骨太方針の中に保育料無償化が盛り込まれるよう、引き続き、各市と連携して対応に当たってまいります。